



## 平成21年5月期 第2四半期決算短信

平成21年1月13日

上場会社名 アウンコンサルティング株式会社  
 コード番号 2459 URL <http://www.auncon.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 信太 明  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 (氏名) 橋川 徹也  
 四半期報告書提出予定日 平成21年1月14日

上場取引所 東

TEL 03-3239-2727

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年5月期第2四半期の連結業績(平成20年6月1日～平成20年11月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年5月期第2四半期	2,333	—	122	—	125	—	78	—
20年5月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年5月期第2四半期	1,091.44	1,042.11
20年5月期第2四半期	—	—

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
21年5月期第2四半期	2,530	—	1,952	—	76.8	—	26,818.66	—
20年5月期	2,558	—	1,939	—	75.7	—	26,926.76	—

(参考) 自己資本 21年5月期第2四半期 1,942百万円 20年5月期 1,936百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年5月期	—	0.00	—	1,000.00	1,000.00
21年5月期	—	0.00	—	—	—
21年5月期(予想)	—	—	—	400.00	400.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年5月期の連結業績予想(平成20年6月1日～平成21年5月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,798	—	103	—	106	—	66	—	914.10

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

## 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

株式会社アート・スタジオ・サンライフ  
 新規 2社(社名 国際広告制作株式会社) 除外 1社(社名 株式会社アート・スタジオ・サンライフ子会社)

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年5月期第2四半期 72,428株 20年5月期 71,908株  
 ② 期末自己株式数 21年5月期第2四半期 1株 20年5月期 1株  
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年5月期第2四半期 72,008株 20年5月期第2四半期 1株

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

・本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき弊社において判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がございますので、この業績予想に全面的に依拠しての投資等の判断を行うことは差し控えてくださいますようお願い申し上げます。なお、上記予想に関する事項は2ページ【定性的情報・財務諸表等】1. 連結経営成績に関する定性的情報をご参照ください。また、通期予想の対前期比(%)につきましては、前期は第4四半期から連結財務諸表を作成しておりますため、記載を省略しております。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成20年6月1日～平成20年11月30日）におけるわが国経済は、世界経済減速の影響を受け、輸出産業を中心に企業収益が低迷いたしました。また、企業の設備投資動向もおおむね弱含んでいる環境下、雇用情勢も悪化しており景気は急速に下押し圧力が高まってきております。

当社グループを取り巻くインターネット広告市場は、第2四半期連結会計期間には、一部で企業業績の低迷から広告費を削減する影響が見られました。

このような環境の中、当社グループは検索エンジンマーケティング（SEM）によるコンサルティングサービスおよび企業のWebサイトや製品パンフレット等の紙媒体制作（グラフィック）を通じたマーケティング支援サービスを英語・中国語・日本語など（以下、「多言語」）により提供することで企業のWebマーケティング支援ニーズに広く対応できる体制の充実をはかるとともに、インターネット広告市場のみに依存する事業構造からの転換を進めてまいりました。しかしながら、昨今の世界的景況感の悪化および金融危機による投資マインドの冷え込みの影響もあり、当第2四半期連結累計期間につきましては構造改革のスピードが想定よりも遅れることとなりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におきましては、売上高は2,333百万円、営業利益は122百万円、経常利益は125百万円、四半期純利益は78百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次の通りです。

<SEM事業>

検索エンジン最適化（SEO）は、クライアントのコスト削減の影響を受け、コンサルティングサービスから成果報酬型へ需要がシフトしつつある流れもあり減収となりました。検索連動型広告・コンテンツ連動型広告（P4P）については、価格競争が一層激しさを増しておりますが、当社グループでは引き続き高い付加価値を追求したサービスをすすめてきた結果、減収となりました。

この結果、当事業の売上高は2,114百万円、営業利益は116百万円となりました。

<クリエイティブ事業>

Webサイト制作および紙媒体制作（グラフィック）とともに、多言語によるサービス提供の強みや制作物の品質に対する顧客評価を反映し、既存大手企業を中心に新規案件受注は堅調に推移しましたが、一部では企業の新製品リリースの見送りの影響もあり、減収減益となりました。

この結果、当事業の売上高は224百万円、営業利益は7百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

（資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べて横ばいで推移し、1,601百万円となりました。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて3%減少し、929百万円となりました。これは、主に長期前払費用の増加があったものの、減価償却による無形固定資産の減少41百万円によるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度に比べて1%減少し、2,530百万円となりました。

（負債）

流動負債は、前連結会計年度末に比べて16%減少し、520百万円となりました。これは、主に前受金34百万円の減少によるものであります。

固定負債は、58百万円となりました。これは、主に退職給付引当金26百万円の増加によるものであります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて7%減少し、578百万円となりました。

（純資産）

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1%増加とほぼ横ばいで推移し、1,952百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年1月8日付「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」において公表いたしました通り、平成20年7月14日に公表いたしました平成21年5月期通期の連結業績予想を下方修正することといたしました。

企業収益動向が急速に悪化する環境において、検索エンジン最適化（SEO）については、クライアントのコスト削減の影響を受け、コンサルティングサービスから成果報酬型へ需要がシフトしつつある流れもあり減収となる見通しとなりました。また、検索連動型広告・コンテンツ連動型広告（P4P）についても、クライアントのコスト削減に加え価格競争が一層激しさを増している中、当社では引き続き高い付加価値を追求したサービスをすすめてきた結果、減収となる見通しとなりました。下期においても、こうした厳しい事業環境が継続することが予想されます。

平成21年5月期通期の予想といたしましては、連結売上高3,798百万円、営業利益103百万円、経常利益106百万円、当期純利益66百万円と予想しております。

今後は早期に構造改革を完了し、また、市況の変化に応じたサービスニーズへの対応を迅速に行なうことを通じ高い利益率を確保できる強固な体制を構築すべく、全社一丸となって取り組んでまいります。

#### 4. その他

##### (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

当第 1 四半期連結会計期間より、新たに子会社となりました株式会社アート・スタジオ・サンライフおよび国際広告制作株式会社(株式会社アート・スタジオ・サンライフ子会社)を連結の範囲に含めております。

なお、変更後の連結子会社の数は 4 社であります。

(追加情報)

上記の新たな事実の発生に伴い、以下の新たな会計処理を採用しております。

##### ①重要な資産の評価基準及び評価方法

###### a 有価証券

その他有価証券

(イ)時価のあるもの

連結決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

(ロ)時価のないもの

移動平均法による原価法

###### b たな卸資産

仕掛品

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

##### ②重要な引当金の計上基準

###### a 退職給付引当金

従業員への退職給付に備えるため、自己都合要支給額を退職給付債務とする方法(簡便法)により、当四半期連結会計期間末における退職給付債務額を計上しております。

###### b 受注損失引当金

受注業務に係る将来の損失に備えるため、損失発生の可能性が高く、かつ、その損失見込額を合理的に見積もることができる受注業務について、当該見込額を計上しております。

##### ③のれんの償却に関する事項

5 年間で均等償却しております。

##### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

##### ① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第 2 四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

##### ② 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

##### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第 12 号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第 14 号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

##### ②連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱いの適用

「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(企業会計基準委員会 平成 18 年 5 月 17 日 実務対応報告第 18 号)を当第 1 四半期連結会計期間から適用しております。

これによる、当第 2 四半期連結累計期間の連結財務諸表に与える影響はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】  
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年11月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,064,918	814,752
受取手形及び売掛金	485,951	733,867
仕掛品	25,000	—
繰延税金資産	6,534	10,511
その他	22,207	50,430
貸倒引当金	△3,085	△5,570
流動資産合計	1,601,526	1,603,990
固定資産		
有形固定資産		
建物	13,314	13,314
減価償却累計額	△6,772	△6,052
建物(純額)	6,542	7,262
工具、器具及び備品	40,233	24,256
減価償却累計額	△28,132	△12,944
工具、器具及び備品(純額)	12,100	11,311
有形固定資産合計	18,643	18,573
無形固定資産		
のれん	764,427	800,000
ソフトウェア	92,906	100,753
その他	2,146	—
無形固定資産合計	859,480	900,753
投資その他の資産		
投資有価証券	2,861	—
敷金及び保証金	44,493	32,825
繰延税金資産	860	1,053
その他	2,877	1,301
投資その他の資産合計	51,092	35,180
固定資産合計	929,216	954,508
資産合計	2,530,743	2,558,498

当第2四半期連結会計期間末  
 (平成20年11月30日)

前連結会計年度末に係る  
 要約連結貸借対照表  
 (平成20年5月31日)

負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	284,329	399,515
短期借入金	41,000	—
1年内返済予定の長期借入金	6,996	—
未払費用	55,698	45,931
未払法人税等	49,728	97,755
未払消費税等	26,670	—
前受金	19,638	54,289
受注損失引当金	1,168	—
その他	35,066	21,306
流動負債合計	520,295	618,798
固定負債		
長期借入金	7,353	—
退職給付引当金	26,420	—
その他	24,400	—
固定負債合計	58,173	—
負債合計	578,469	618,798
純資産の部		
株主資本		
資本金	339,576	339,290
資本剰余金	470,576	470,290
利益剰余金	1,133,353	1,126,669
株主資本合計	1,943,505	1,936,249
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△480	—
為替換算調整勘定	△603	—
評価・換算差額等合計	△1,084	—
少数株主持分	9,851	3,450
純資産合計	1,952,273	1,939,700
負債純資産合計	2,530,743	2,558,498

(2)【四半期連結損益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年6月1日 至平成20年11月30日)
売上高	2,333,488
売上原価	1,818,330
売上総利益	515,157
販売費及び一般管理費	
販売費及び一般管理費合計	392,594
営業利益	122,562
営業外収益	
受取利息	919
補償金収入	2,380
その他	2,743
営業外収益合計	6,043
営業外費用	
支払利息	455
為替差損	3,118
その他	20
営業外費用合計	3,594
経常利益	125,011
特別利益	
貸倒引当金戻入額	2,485
賞与引当金戻入額	3,459
特別利益合計	5,945
特別損失	
投資有価証券評価損	577
特別損失合計	577
税金等調整前四半期純利益	130,379
法人税、住民税及び事業税	47,935
法人税等調整額	4,170
法人税等合計	52,105
少数株主損失(△)	△318
四半期純利益	78,592

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自平成20年6月1日  
至平成20年11月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	130,379
減価償却費	15,782
のれん償却額	91,235
投資有価証券評価損益(△は益)	577
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2,485
退職給付引当金の増減額(△は減少)	1,088
受注損失引当金の増減額(△は減少)	1,168
賞与引当金の増減額(△は減少)	△3,091
受取利息及び受取配当金	△919
支払利息	455
売上債権の増減額(△は増加)	328,160
たな卸資産の増減額(△は増加)	9,453
仕入債務の増減額(△は減少)	△138,105
その他	18,212
小計	451,913
利息及び配当金の受取額	919
利息の支払額	△516
法人税等の支払額	△95,075
営業活動によるキャッシュ・フロー	357,241
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△1,109
無形固定資産の取得による支出	△2,982
子会社株式の取得による支出	△62,743
その他	3,897
投資活動によるキャッシュ・フロー	△62,937
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(△は減少)	5,000
長期借入金の返済による支出	△2,915
株式の発行による収入	572
配当金の支払額	△70,330
財務活動によるキャッシュ・フロー	△67,673
現金及び現金同等物に係る換算差額	△603
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	226,026
現金及び現金同等物の期首残高	814,752
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,040,779

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第 12 号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第 14 号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成 20 年 6 月 1 日 至 平成 20 年 11 月 30 日)

	SEM 事業 (千円)	クリエイティブ事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,110,637	222,851	2,333,488	-	2,333,488
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	3,588	1,192	4,780	(4,780)	-
計	2,114,225	224,043	2,338,268	(4,780)	2,333,488
営業利益	116,217	7,366	123,583	(1,020)	122,562

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主なサービス

(1)SEM 事業・・・SEO、P4P、その他

(2)クリエイティブ事業・・・Web サイト制作、紙媒体制作

【所在地別セグメント情報】

全セグメントの売上高の合計に占める「日本」の割合がいずれも 90%を超えているため、記載を省略しております。

【海外売上高】

海外売上高が連結売上高の 10%未満であるため、記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

6. その他の情報

生産、受注及び販売の状況

①生産実績

該当事項はありません。

②仕入実績

当第2四半期連結累計期間における仕入実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	仕入高 (千円)
SEM 事業	1,492,942
クリエイティブ事業	-
合計	1,492,942

(注)上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③受注状況

当第2四半期連結累計期間における受注実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高 (千円)	受注残高 (千円)
SEM 事業	-	-
クリエイティブ事業	189,156	80,369
合計	189,156	80,369

(注)上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

④販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高 (千円)
SEM 事業	2,110,637
クリエイティブ事業	222,851
合計	2,333,488

(注)上記の金額には、消費税等は含まれておりません。